

特集 新しい大豆の品種・栽培技術

新しい大豆の品種・栽培技術

「売れる大豆づくり」を進めるため、醤油醸造加工用品種の導入や低コスト多収栽培を可能とする狭条密植栽培技術の開発を進めている。また、莢がはじけない機械化収穫適性の高い大豆品種「サ

チユタカA1号」を奨励品種に採用した。

池上 勝（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2412）

莢がはじけない大豆新品種「サチユタカA1号」の奨励品種採用

「サチユタカA1号」は、「サチユタカ」の莢のはじけやすい欠点を改善するために育成された品種である。「サチユタカ」と同時期に収穫できて、ほぼ同じ収量、品質（高タンパク）の収穫物が得られる。莢がはじけにくく脱粒が少ない。県産大豆の生産安定に寄与するため奨励品種に採用されることになった。

内容

本県の奨励品種「サチユタカ」は高タンパクの良質品種であるが、莢がはじけやすく、機械収穫では収穫ロスが生じる欠点がある。そのため、改善の要望を生産現場から受けていた。「サチユタカA1号」は、(国研)農研機構・作物研究所(現・次世代作物開発研究センター)が莢のはじけにくい「サチユタカ」を目標として育成した品種である。「サチユタカA1号」の諸特性を「サチユタカ」と比較したところ、同じ時期に収穫可能で、生育中の立枯、青立や褐斑、裂皮は同程度に発生するが、倒伏には強い。子実重は重い。タンパク質含有率は同等である(表)。裂莢(莢のはじけ)による自然脱粒が少なく、「サチユタカ」と同じ栽培管理が可能と考えられる。

2012年に作物研究所と共同で実施した現地栽培試験においてコンバイン収穫を行い、機械収穫ロス(脱粒、未脱莢等の合計)の収量に対する割合をみた。その結果、収穫ロスは「サチユタカ」の17.8%に比較して13.8%となり4%減少、収量は、「サチユタカ」218kg/10aに対して277kg/10aとなって27%増加した。また、農家を対象とした研修会において、機械収穫ロスの優位性が確認できた。

今後の方針

普及対象は本県産「サチユタカ」を使用する生産者及び実需者を想定し、普及予定地域は県内「サチユタカ」生産地における品種転換を想定している。

松本 純一（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2410）

表 「サチユタカA1号」の生育、収量、及び品質の特性

| 標準 | 供試品種 | 開花期 (月日) | 成熟期 (月日) | 倒伏 | 立枯 | 主莖長 (cm) | 最下着莢 高 (cm) | 子実重 (kg/10a) | 標準 対比 (%) | 百粒重 (g) | 障害粒 | | | 検査 等級 | 粗タンパ ク含有 率(%) |
|----|----------|-------------|-------------|----|----|-------------|-------------------|-----------------|-----------------|------------|--------|--------|--------|----------|---------------------|
| | | | | | | | | | | | 褐 斑 | 裂 皮 | し わ | | |
| 標準 | サチユタカA1号 | 8.05 | 10.29 | 0 | 1 | 60 | 15.8 | 377 | 104 | 35.5 | 1 | 1 | 1 | 3 | 45.2 |
| 播 | 比 サチユタカ | 8.04 | 10.28 | 0 | 1 | 61 | 16.1 | 361 | 100 | 35.2 | 1 | 2 | 1 | 3 | 46.5 |
| 晩 | サチユタカA1号 | 8.23 | 11.13 | 1 | 1 | 53 | 14.7 | 306 | 103 | 35.8 | 1 | 1 | 1 | 2 | 46.2 |
| 播 | 比 サチユタカ | 8.23 | 11.13 | 1 | 1 | 52 | 14.2 | 297 | 100 | 34.9 | 1 | 1 | 1 | 2 | 47.3 |

注1)試験年次は標準播は2009～2015年。晩播は2011～2015年。播種期は標準播：6月19日～6月25日、晩播：7月21日～8月4日。

栽培密度は標準播：条間75cm、株間15cm(8.9株/m²)、2本仕立て、晩播は条間60cm、株間10cm(16.7株/m²)、2本仕立て、

注2)倒伏、立枯、障害粒は0(無)～5(甚)の6段階評価。

注3)収量は6.7mmの篩で選別後の重量。収量及び百粒重は15%水分換算値。

注4)等級は近畿農政局兵庫支局(旧兵庫農政事務所)による。

注5)粗タンパク質含有率は2009年、2010年は長野県野菜花き試験場、2011年～2015年は近畿中国四国農業研究センターによる分析結果。